

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな がっこうほうじんちゅうぶだいがくはるひがおかこうがっこう					②所在都道府県	愛知県
	①学校名	学校法人中部大学春日丘高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計		
普通科	503	449	217		1169	1年：503名	
	対象コースは年次進行により順次追加。初年度は国際コースのみ、平成28～30年度に啓明・特進・進学コースを追加し、平成31年度は全校生徒対象。					2年：449名	合計1,405名
						3年：453名	
⑥研究開発構想名	「中部圏のグローバル化を推進する若きパイオニアの育成」						
⑦研究開発の概要	春日丘SGH憲章のもと、中部大学の全面協力による少人数グループゼミ形式で、東南アジア、東アジアを主な研究領域とし、4つの研究分野（国際開発、国際ビジネス、環境・エネルギー、国際医療・福祉）において課題探求型学習をする。春日井商工会議所、グローバル展開をする地域企業（王子製紙春日井、清水建設、東洋電機など）、海外提携大学・提携高校と連携し、国内・国外のフィールドワークを効果的に位置づける。さらに、ロジカル・シンキング（国語）、クリティカル・ライティング、イングリッシュ・プレゼンテーション（英語）、プレマクロ経済学（数学）を関連付け、論理的思考力に基づいた発信力を有するグローバル・リーダーを育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 建学の精神「不言実行あてになる人間」を基に、地域の要望に応え「地域のグローバル化を推進する人材」を育成する。国際コースのカリキュラムを先行開発し、「グローバル・リーダー」に必要なグローバルコンピテンシー（6つの資質：積極性、集団協働力、創造力、批判的思考力、判断力、コミュニケーション能力）を育てる課題探究型学習と教科指導による体系的な教育課程を開発し、順次他コースへ（平成28年度啓明コース、平成29年度特進コース、平成30年度進学コース、平成32年度完成）その教育内容を普及させる。この目的の実現に向けて、①計量的自己評価による6つの資質の向上②マインドマップを用いたグローバル・ルークス（ポートフォリオ）による論理的思考力の向上③「ロジカル・シンキング」、「クリティカル・ライティング」、「イングリッシュ・プレゼンテーション」による発信力の向上④CEFRのB2レベル到達率100%（現在75%）⑤国際化を進める国内・海外の大学へ進学率向上⑥TOEFLの研究⑦国内外の研修・大会、社会的な活動への生徒の主体的な参加⑧環太平洋春日井サミットの開催、以上8点を目標とする。					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 （現状分析）これまで、ESD課題探究の海外研修、JICAや大学教員との異文化学習会など、国際教育において一定の成果を得てユネスコスクールに認定されている。しかし生徒の意識調査によれば、世界情勢に対する関心や留学を希望する度合いの高さに比べ、国際舞台で活躍したい意欲の度合いは低い。また、探究心や論理的・批判的な思考力の汎用能力については、比較的肯定的な自己評価であるが、これらを着実に高めていくことが必要である。 （仮説）少人数グループによるゼミ形式で、大学・企業等と定期的に連携し、大学教員・大学院生・大学留学生や企業人等による指導助言、フィードバックを受けながら、個人研究とグループ研究を効果的に組み合わせた系統的・段階的な課題研究を行うことにより、課題発見力・設定力、協働作業力、論理的思考力・表現力を高めることができる。また、知的好奇心が喚起され、大学での学びに対する興味・関心が高まり自律的に学び続ける意欲を醸成することができる。					
		(3) 成果の普及 ①ワールド・コラボ・フェスタなど国内のイベント参加 ②中部大学と密接に連携し、中部ESD拠点を通じて関連企業および地域社会（春日井市商工会議所）へ発信③春日井市内7校、及びESD高校生コンソーシアム愛知加盟校へ発信④SGH指定校ミーティングで発信⑤年4回の情報誌「SGH通信」を校内、校外へ発行⑥環太平洋・春日井高校生サミットを開催					

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ 研究開発の内容等</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ 一 2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>地球市民として「持続可能な社会に向けての協働・共生」を実現するために必要と考えられる資質「グローバルコンピテンシー」の育成を軸に、地域企業のグローバル化における諸課題、持続可能な社会の発展に向けての諸課題を研究する。「総合的な学習の時間」等で現在実施しているESD学習の4つの研究分野（国際開発、国際ビジネス、環境・エネルギー、国際医療・福祉）をSGH学校設定科目「グローバル課題研究」へと発展させ、近年経済発展が著しく、また地域によっては我が国以上にグローバル化が進むアジア諸国を主な対象に、国際社会でのビジネスの可能性を追求するのみではなく、同じアジアの一員としての「協働・共生意識」を育成する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>(実施方法)</p> <p>隔週土曜日の1～4時限目を使う。研究分野の課題の原因、仮説、検証、提案の流れを基礎に置き、少人数グループで、フィールドワークや大学・企業の方々からの講演を計画しながら、研究分野に対する成果をグループ発表形式で行う。また、社会科の教員と連携ながら、自主教材、タブレット端末、インターネット等を使用し、前述の研究分野に関して研究をする。その学習の軌跡としてグローバル・ルーカスを作成する。班別課題探求学習を基盤として、中部大学、春日井商工会議所、地域企業（王子製紙春日井、清水建設、東洋電機）、NPO団体（JICA）と連携し、講師を招き、校外（地域企業や商工会議所等）へのフィールドワークを効果的に位置づけ、各研究分野の学習に取り組む。</p> <p>(評価)</p> <p>① プロジェクト研究（課題探求型授業）を通じて、定期的にグローバルコンピテンシーをはかる「自己評価」を生徒に実施し、前述の6つの資質に対し計量的評価をする。プロジェクト研究をしていない他の3コース（進学・特進・啓明コース）から抽出された生徒たちにも同じ様に自己評価をしてもらい、その計量的評価を比較して仮説を検証する。</p> <p>② 課題探求学習において、学習の経過をその都度ポートフォリオ「グローバル・ルーカス」に保存、蓄積し、そこに残されたマインドマップの軌跡、まとめの軌跡から、生徒たちの課題研究の内容とその進め方について、中部大学関係教員の協力を得て自己点検評価する。</p> <p>③ 第三者機関（名古屋市立大学人文社会学部、春日井市教育委員会、春日台特別支援学校、公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)、木野瀬印刷などの地域企業）が「グローバル・ルーカス」や「課題研究の中間報告書」を通じて課題研究の成果を評価する。</p> <p>⑤ 研究前後のアンケート調査により、生徒・保護者・教員の国際意識の変化を調査する。</p> <p>⑥ 「ロジカルシンキング」、「クリティカルライティング」、「イングリッシュプレゼンテーション」の評価は発表等のパフォーマンス評価と定期考査の成績を合わせて行う。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ 一 3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>論理的思考力、発想力や国語の表現力を養う「ロジカル・シンキング」、欧米の発想の仕方や論理構成を学び、課題研究の内容を英語で論述する「クリティカル・ライティング」、英語で発表しプレゼンテーション能力を高める「イングリッシュ・プレゼンテーション」の3つをSGH学校設定科目とし、課題探求型学習（グローバル課題研究）と関連付けたコミュニケーション能力の育成も研究課題とする。評価は発表等のパフォーマンス評価と定期考査の成績を合わせて行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法</p> <p>①イングリッシュルームの開設②外国人留学生の受け入れの拡充③留学制度の充実④海外提携校の拡充⑤名古屋国際センター、春日井国際交流会 KIF との交流⑥ICT教育の導入。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑨ その他特 記事項</p>	<p>春日井商店街祭り、春日井市民祭りでの外国人対応、春日井国際交流会 KIF のイベントにおける地元在住外国人労働者への異文化理解の手助けなど、地域のグローバル化に積極的に貢献する。</p>	

ふりがな	がっこうほうじん ちゅうぶだいがく はるひがおかこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	学校法人 中部大学 春日丘高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:								1169人
	SGH対象生徒以外:		0人						236人
目標設定の考え方: 本事業を通じて、自主的に、積極的に貢献活動や研鑽活動に取り組む姿勢を身につける									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:								100人
	SGH対象生徒以外:		0人						50人
目標設定の考え方: グローバル人才に必要な考え方を持てるように海外経験を積む									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:								80%
	SGH対象生徒以外:		30%						10%
目標設定の考え方: グローカル人財の使命感を持ち、広く地域社会や世界へ貢献する									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:								5人
	SGH対象生徒以外:		0人						0人
目標設定の考え方: 論理的、批判的思考を基盤に自分の意見を持ち、国内外へ情報発信することができる割合を増やす									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:								100%
	SGH対象生徒以外:		30%						10%
目標設定の考え方: グローカル人財になるために、英語を道具として使うことのできる生徒の割りあいを増加させる									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:							60%
	SGH対象生徒以外:	%	10%					15%
目標設定の考え方: 高等教育を基礎にさらなる国際的な研究を追求できる人材の割合を増加させる								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:							10人
	SGH対象生徒以外:	1人	0人					0人
目標設定の考え方: 将来グローバルに活躍するために海外大学での研究を進め、地域社会へ貢献することができる人材の割合を増加させる								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							100%
	SGH対象生徒以外:	-	-					5%
目標設定の考え方: 課題探究学習を通じて、答えのない課題を積極的に取り組む人材の割合を増やす								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:							500人
	SGH対象生徒以外:	-	-					25人
目標設定の考え方: 日本の大学での研究をさらに海外で発展させ、地域社会へ貢献する意欲を持つ人材を育成する								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	130人	140人						200人
	目標設定の考え方: 国内の課題研究を基盤にして、国外で課題研究を深めることのできる人材を増加させる							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	380人						1169人
	目標設定の考え方: 地域社会への貢献を前提に、国内の状況を理解し、意欲的に課題研究に取り組むことができる人材を育成する							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	校	0校						10校
	目標設定の考え方: 国外の大学との連携をとることにより、海外の情報を国内で							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	4人	4人						125人
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	4人	2人						134人
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	0人	0人						20人
	目標設定の考え方: 情報発信能力の向上や論理的、批判的思考能力の育成につながる							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	5人	4人						50人
	目標設定の考え方: 日々の生活における異文化理解の促進やグローバルな物の考え方につながる							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回						70回
	目標設定の考え方: 未知の課題に取り組む姿勢や態度の育成や情報発信能力の向上の手本になることにつながる							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
	目標設定の考え方: 課題探究における国内外の情報共有につながる							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)			1,405	1,405	1,405	1,405	1,405
SGH対象生徒数			99	215	346	802	1169
SGH対象外生徒数			1306	1190	1059	603	236